通常の学級に在籍するADHDと自閉症スペクトラム傾向がある小学３年生の児童に対する合理的配慮の提供事例

１．事例の概要

Ａ児は、Ｂ小学校の通常の学級に在籍する ADHD と自閉症スペクトラム傾向がある、小学３年生である。本事例は、在籍するＢ小学校の校内支援委員会を経て、Ｃ市の巡回相談につながり、合理的配慮の提供を行った事例である。

Ａ児のワーキングメモリーの弱さや注意転導性の高さに対する合理的配慮を行い、Ａ児が活躍できる場作りや落ち着いて学習できる環境作りなどを行った。合理的配慮の具体的内容については、巡回相談員、合理的配慮推進員、合理的配慮協力員からの助言を受けて検討し、その都度、支援方法を保護者に学級担任から状況を伝えている。

また、合理的配慮や基礎的環境については、校内の支援委員会やＣ市専門家会議、大学教員からの助言も受けて検討している。

キーワード　行動や感情のコントロール、整理整頓、課題遂行、注意集中、巡回相談　関係機関の連携

２．児童の実態

Ａ児は、Ｂ小学校の通常の学級に在籍する ADHD と自閉症スペクトラム傾向がある、小学３年生である。知的発達は平均的であるが、個別の指導計画を作成して支援している。Ａ児の興味のある理科や社会科等は意欲的に取り組もうとするが、学習内容から外れて、Ａ児自身がしたいことをしてしまう傾向がある。離席することも多く、教室を出て行く時もある。また、身の回りの片付けが難しく、机上や引出の中には物があふれている。必要なもの、そうでないものは自覚していて、おおよそ場所も覚えているが、片付けるには学級担任が一つずつ声掛けを行う必要がある。

３．本事例に関する基礎的環境整備

○　Ｂ小学校のあるＣ市では、支援の必要な人に対して乳幼児から学齢期、就労期まで、保健・福祉・医療・教育及び就労の関係機関の連携による横の支援と、個別の教育支援計画による縦の支援を提供できる基盤が整備されている。【基礎１】

○　早期発見が「早期からの障害の指摘」とならないよう、就学前には、保護者との間で障害理解について話し合いを行っているため、多様な学びの場の活用について、保護者の抵抗が低い【基礎１】

○　「子どもを語る会（専門性を高める研修会）」を年３回開催し、子どもの姿をどう見るか、どう支援するか事例検討会を開催している。その際、Ｂ小学校のあるＣ市巡回相談員が同席し、助言を行っている【基礎２】

○　Ｂ小学校には、「ことばの教室」が設置され、通級による指導を行う他、Ｃ市発達支援センターとしても位置づけられている。就学前から義務教育終了までの幼児児童生徒を対象とした指導を行い、各校・園との連携を日常的に行っている。【基礎７】

４．合意形成のプロセス

Ａ児が小学２年生の時に学校での状況を踏まえて学級担任と特別支援教育コーディネーターから保護者に対してＣ市巡回相談を勧め、保護者も学習の状況からＡ児についての理解を深めたいと、検査を受けることに了解した。検査の結果については、Ｂ小学校特別支援教育コーディネーターと担任が同席し、Ｃ市巡回相談員から保護者に伝えられた。その際に、保護者から個別の指導計画等の作成についての要望があった。合理的配慮については、巡回相談員、合理的配慮推進員等からの助言を受けて校内で検討し、保護者にはＡ児の困難さの状況を伝えて、提供に関する合意形成をしている。

５．合理的配慮の実際

○　Ａ児は、整理整頓することが難しい（写真１）。そこで整理かごとトレイを用意し（写真２）、Ａ児に何をどこに片付けるかを決めさせている。また、ビニールテープを貼り、視覚的に分かりやすいように分類させている。【合理①―１―１】

写真１ 整理されていない状態

⇒

写真２　整理かごに整理された状態

○　Ａ児は課題遂行が困難なため、やるべきことをいくつか板書して示し、その中から取り組みやすいものをＡ児が選択する。【合理①－１－２】

○　板書をノートに書き写すことや、ノートに文章を書くことは苦手意識が強いため、例題を学級担任と一緒に前面黒板で考えて書くようにしたり、ノートに書く量を調整したりして負担を軽減している。【合理①－２－２】

○　Ａ児が集中して学習に参加できるように、Ａ児をスクリーンの正面の席にし、スクリーン両側の壁面に気を取られないように配慮している。また、座席も配慮し、気の合う児童が隣の席になるようにしている。【合理①－２－３】

６．本事例の成果と課題

Ａ児が課題を遂行するために、選択させる、場所を変える、人的配置を工夫する等、様々な試みを行ってきた。Ａ児は、意欲的に学習に参加すれば、学習理解が進められることも実感しはじめている。Ａ児の興味・関心を把握し、Ａ児が活躍できる授業構成にするように心がけた。また、Ａ児が意欲的に学習に参加するためには、他の児童からの理解や励ましなども欠かせない。教員よりも仲間の言葉がけの方が、Ａ児にとって有効な場面も多く見られた。わかりやすい学級のルールがあり、温かな雰囲気のある学級こそがＡ児への大きな支援になることを実感している。

今後、Ａ児にとって、教科学習は更に困難が大きくなることが予想される。Ａ児の発達段階に応じた合理的配慮を提供し続けられるように、個別の教育支援計画等指を引き継ぐとともに、Ｃ市ことばの教室などを活用して、Ａ児に対して今後もより良い合理的配慮を提供できるようにしたい。